

特集:永く愛用するならハンドメイドの逸品です

REAL DESIGN

リアル・デザイン

6

June 2010
880yen

2010年6月号
毎月16日発売
4月15日発売
第5巻第9号 通巻67号



特集

手仕事には 技と愛が あります。

美しい文字が躍る活版印刷の名刺、色彩豊かな甲州印傳の**Phoneケース**、75年の歴史が刻まれる**万年筆**、神業が宿る**レザーシューズ**、堅牢・強固な**スポーツケース**と**洋傘**、料理がさらに華やく**器**……。手づくりのプロダクトには、確かな品質と作り手のぬくもりが宿ります。いま、手にするべきは手仕事品です。

特集:手づくりの器がある食卓

特集:“職人作”の日用雑貨の使い心地





同じアングルで撮らえた客室のバスルーム。28㎡という広さの中に壁で仕切られた広い Dressing エリアも含まれ、ダブルシンクが設置されている。バスルームにはウォークイン・クローゼット・シャワーのブースも。景色を見たりテレビを見たり、1日の疲れを癒すに充分な空間



デザインホテルへようこそ
From Hong Kong

“都心の隠れ家”はモダンなスモールホテル

北京に誕生した“ザ・オボジットハウス”で私たちを驚かせたスワイヤーホテルズが、第2弾の舞台に選んだのは華やかな香港。しかも、コンセプトを変えた2軒のホテルがほぼ同時に誕生した。

文=せきねきょうこ 写真=村山玄子

the Upper House

【ザ・アッパーハウス】

香 港島の、アミラリティ（金融）の中心を成すパシフィック・ブレイスに、2009年10月2日、かねてから話題を呼んでいたホテル「ザ・アッパーハウス」がオープンした。すでにある高級ホテル「JWマリオット」とビルを共有しているが、エントランスを連え、ホテル名のとおり、ビルの上層階に位置し都会の隠れ家的な趣がある。

香港では珍しいブティック系の高級ホテルとして、「ザ・アッパーハウス」はプライベート感にこだわりの、まるで自分の邸宅にいるように、閑静な雰囲気や全面に意識した造りだ。部屋数は全117室。ベーシックな部屋でも68㎡という広さがあり、自慢のバスルームは28㎡もの贅沢な造りだ。ゆったりと広いバスタブや、壁内にあることさえ一瞬わからないTVの設置、パノラマの楽しめる大きな窓に開かれた印象的なバスルームは時間を忘れて寛げるだろう。ただ泊まるだけではない。エントランスに始まるストーリー性のあるデザインを知ることで感動は一気に大きくなるはず。玄関に使われているイタリヤ産の石英石は、英国のデザイナー、トーマス・ヘザーウィックが「個人邸宅でゲストを迎えるためにカーテンを開くイメージ」として造られた。また4㎡も

ある重厚なニッケル製の玄関ドアや、それを囲む大きな硝子鏡、館内に置かれたランタン、そして入口から一気に4階まで続く「Zoo Tunnel」（鳥居トンネル）と呼ばれる長いエスカレーターなど、香港のビル群を離れ、静かな異空間へと旅立つためのアプローチを抜け、このエントランスから「ジャーニー」が始まっている。

随所に込められた細心のストーリーをプロデュースし、ホテルをトータルにデザインしたのがインテリアデザイナー、アンドレ・フーだ。彼は「平穏と静寂の安憩地」を求めたという。

最上49階で超高速エレベーター

の感性が生かされている。

アイランドビューのバスルーム。イタリア産天然石灰石やトルコ産石灰石、タイムストーン・コーティング、白木の深い色調が優しい印象



注目の若手デザイナー アンドレ・フー



物静かなアンドレ・フーだが、仕事の話になると目の光が違う。“Flavor of Asia”を常に意識すると語る香港生まれ。14歳ですでに英国に留学し、2000年ケンブリッジ大学卒業。同年ロンドンにAFSOを立ち上げ、'04年からは香港が活動の拠点。現在、アジア各国、ヨーロッパで活動中。

最上階のレストラン&バーは 極上のビュー



1.コンテンポラリーな雰囲気のカフェ・グレイ・デラックス。2~4.披露してくれた料理の数々。「サフラン入りラグイオリのチーガンック・トマト風味」や「ビーフ・リブ肉のフレンチ・マスタードソース」など。5. NY出身のシェフ、Joseph Sergentakisが日々の厨房を随う責任者

NYを代表する華々しい経歴のスターシェフ、グレイ・クツツのグルメカフェ「カフェ・グレイ・デラックス」。地元産のオーガニック素材を使い調理する料理は新ヨーロッパ・キューズ。窓からの絶景を楽しみながら、ファインダイニングからカジュアルまで洗練された料理が堪能できる。“21世紀のグランドカフェ”と期待論も高くすでに香港グルメリピーターに。

最上階のスカイラウンジは 誰もが使える寛ぎの空間



1.小規模ながら快適なジム。2.スカイラウンジの中央にあるのが大きな暖炉。3.スカイラウンジはチェックインやアウトにも、ラウンジとしても、また自宅の居間のように読書や寛ぎにも自由に使える

エントランスから特別感



1.“Tori Tunnel”（鳥居トンネル）はゲストを一気に4階まで導く。2.エントランスホール。右のカウンターにパーソナル・アシスタントが待機

このPCが“タブレット”と呼ばれる情報の源。チェックイン・アウトも操作し、PCと同等の情報が可能な使いもの

the UPPERHOUSE

The Upper House
Pacific Place, 88, Queenway
Hong Kong, R.O.C.
Tel: (+852) 2918-1838
Fax: (+852) 3968-1200
www.upperhouse.com
総層数: 117室 (Studio 70 / 68㎡、
スイートルーム / 114㎡) ~
料金: (1室料) HK\$ 2,888 (Studio
70) ~
施設: カフェレストラン、スカイ
ラウンジ、ジム、オープンエアの
芝生庭、他
アクセス: 香港国際空港より車で
約35分
日本の遠隔先 / (予約) プリファード
D・ホテルズ&リゾート
0120-747-755

「おもてなし」を実感するアメニティ



ルームアメニティとして便利で嬉しい「尚」のコーヒーメーカー。2種類のカフェ類、3種類のお茶類が揃う



棚に置かれたおやつはマープルチョコやクッキー、フルーツメントス、ナッツ類。ついつい手が出るものばかり



ズバリ揃ったバスアメニティ。石鹸、ヘチマ、経石、バス用ソルト、バスオイルなど。プロダクツは「REN」で統一



客室のミニバーに備えられている豊富な飲み物類。ビール、ジュース、ワイン、シャンパン、牛乳、スナックまで



環境型ペーパーレスの客室とはいえ、さすがにメモ帳だけは当初からある。最近には紙がけられたインフォメーションも



同じくクローゼットに用意されているアメニティ類。シューキーパーは大きき違いの男女別を用意。他にはスリッパ、ランドリーバッグ、ヘアードライヤーなど無いものはいほど充実



クローゼット内に置かれたアメニティのひとつ、オリジナル“エコバッグ”。いまやライフスタイルの必需品



明るいサロンスペース。隣のベッドルームを含み全体で約114㎡のスイート。自宅の居間のようにと造られた空間は優しい色使いや“木”の使い方に落ち着いた印象が



客室は48階から下にある。全室に“iPod touch”が設置され、室内にはほかにペーパーレス。エコロジイの観念と、最新鋭の設備導入による刺激的サービスの奥地からとされ、チェックインも現地からスタッフで常時携帯するPCCタブレットが主役だ。iPod touchはホテル情報のほか、香港のすべの情報、ルームダイニングのメニューまで集約されている。しかし客室内にいて、最新鋭設備よりも、室内全体に使われているモスグリーンが心を落ち着かせてくれる。出窓のクッションに座り、船の行き交うウイクトリア湾や、カオロン島の再開発ビル群を眺めていると、日ごと変わり行く街から熱気が伝わってくる。



1.シンプルで上質感のあるベッドルーム。照明カバーは麻製でカーテンとも色や質を統一。2.スベスたっぷりドレッシングエリアにはステンレス製の2台のシンクが並び、3.ベッドルームとドレッシングエリアを仕切るのは木のアートワーク。4.引き出しに入った“iPod”。この中にすべての情報とサービスがある。5.電話とメモが置かれたトイレ。6.バスルームのタオルとバスローブ